

令和4年度 第3回 碧南市地域自立支援協議会 会議録

1 日時

令和5年3月8日（水）午後1時30分から午後2時30分まで

2 場所

へきなん福祉センターあいくる デイルーム

3 出席者

(1) 委員 20名

碧南市社会福祉協議会 杉浦 浩二（委員長）

碧南市手をつなぐ育成会 三浦 志朗（職務代理）

碧南市身体障害者福祉協会 鈴木 たか子

NPO法人ハートフルあおみ（あおみJセンター所長）水野 啓章

刈谷公共職業安定所碧南出張所 永田 吉則

愛知県衣浦東部保健所 中根 恵美子

愛知県刈谷児童相談センター 瀬戸 奈都生

愛知県立にしお特別支援学校 早川 浩史

碧南市小中学校校長会 石橋 渉

親子の会「カラフル」 鈴木 由記

身体に障害のある子の親子の会「すまいる」 永井 美幸

ほっとまんまピアサポーター 杉浦 有美

碧南市農業委員会 藤浦 利吉

スギ製菓株式会社 杉浦 信秀

西三河南部西障害者就業・生活支援センターくるくる 加藤 正昭

刈谷病院 水野 美香

ふれあい工房アルゴ及びWHJ相談支援センターメビア 雲出 佑

就労センターオアシス碧南 中根 祐子

ふれあい支援センター 竹内 涼

りはくる 小幡 一美

(2) アドバイザー

西三河南部西圏域アドバイザー 大南 友幸

(3) 事務局

福祉こども部長 深津 広明

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係長 河原 睦

福祉課社会福祉係主事 榊原 陵子

福祉課社会福祉係主事 畠山 和也

福祉課社会福祉係主事 川合 修

福祉課社会福祉係主事 齊木 鉄馬

福祉課社会福祉係主事 亀島 瑞生

(4) 基幹相談支援センター（碧南市社会福祉協議会）

地域福祉課長 村松 幸雄

地域福祉課地域福祉係主査 古川 裕隆

地域福祉課地域福祉係主査 小島 誠司

地域福祉課地域福祉係主事 坪井 優佳

地域福祉課地域福祉係主事 長谷川 祥子

地域福祉課地域福祉係主事 天野 好美

地域福祉課地域福祉係主事 久村 明弘

4 傍聴者

0人

5 議題

(1) へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について

(2) 各作業部会の取組状況について

(3) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（杉浦会長）

(2) 議題

ア へきなん障害者ハーモニープランの進捗状況について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

A委員：スポーツ活動の支援について、身体障害者福祉協会は特にボッチャに力を入れており、愛知県が主催している大会にも参加している。他の競技も様々な大会がある。身体障害者福祉協会に加入している方の参加はあるが、加入していない方の参加がない。社会の中で自立していくことに、スポーツは気軽に参加が出来て充実感も感じられると思う。そのため、身体障害者福祉協会に加入していない市内の障害を持った方も積極的に参加できるように市より声掛けをしてもらえたらと思う。

事務局：スポーツ活動や芸術活動は、生活の質を上げるために、必要なことだと

考えている。情報が届かないことや参加者が少ないことについては、課題だと感じられるが、心身障害者福祉センターについては、障害を持っている方が誰でも利用できるようになってきているため、その利用者を増やし、そこでチラシを設置するなど行い一人でも多くの参加者を増やせていけたらと思う。

会 長：農福連携についての項目説明があったが、最近、テレビなどでも取り上げられているが、就労系サービス事業所の方から農福連携や、それ以外でも最近の就労に関するトレンドなど教えてもらいたい。

B委員：農福連携は、ここ5年ぐらいのトレンドであり、農業が盛んな地域の高齢化と仕事が欲しい福祉団体とのマッチングとして進んでいる。キーポイントとしては、農業と福祉を上手くつなぐことが出来るコーディネーターがいることが重要。上手くいかない際の問題点は、マッチング時の条件等のミスマッチがあると思う。

C委員：確かに農福連携は5年くらい前からよく聞くことではあるが、施設を運営する側に、知識がなく農業に手を出すことについて、ハードルが高く感じる。

イ 各作業部会の取組状況について

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

E委員：こども部会について、お聞きしたい。サポートブックについて、碧南市で雛型として、サポートブック、プチサポートブック、サポートシートの3種類がある。その中で、サポートブックについては、作成されたのはかなり前であり、あまり活用されていないように感じる。そのため、ぜひ今のニーズに合った雛型の作成をお願いしたい。

事務局：貴重な意見ありがとうございます。サポートブックについては、内容が細かく記載部分が多いため良いものではあるが、あまり活用されていない。その中で、プチサポートブック、サポートシートが主流になってきているが、サポートブックについて雛型の変更等は検討していきたい。

事務局：医ケア児の外出の課題として、保護者の負担が重く、医療依存度の高い医ケア児の通学や通所時の移動支援の活用について市として検討を行った。その結果、令和5年4月より、医ケア児の通学等を移動支援の対象とする制度改正を行うこととしている。

会 長：先月に保健所にて開催された会議の議題にて、地域移行支援や地域定着

支援について、各市の実績が少ない中で安城市の実績が他市と比較して多いとのことであったが、先進事例や地域移行支援のトレンドがあれば教えてもらいたい。

F委員：先進事例について、直ぐに具体的に説明できないが、今後、保健所として担当者レベルでの課題の検討や情報共有を行う場を設けていきたいと考えている。

会長：にしお特別支援学校について、これで1年が終わると思われるが、これまでの振り返りなど感想でもいいので教えてもらいたい。

G委員：先週の金曜日に高校生の卒業式があり、小中学生については今週、卒業式を迎える。進路指導の先生との話の中でも、保護者の方から卒業後の進路について事業所を知りたいとの声を聞くとのことであった。そのため、事業所部会で行ったような説明会があるのは学校としても、とてもありがたいと思っている。今後も、そのような場を本校としても活用していきたいと考えている。

(3) その他

事務局が会議資料に基づき、来年度の会議予定等を説明した。

7 まとめ

圏域アドバイザーまとめ（西三河南部西圏域アドバイザー 大南友幸氏）

碧南市の福祉計画と1年間の各部会の取り組みを聞くことができ良く分かった。地域生活支援拠点については、各市で取り組みがまちまちである。各市で様々な用意がされているが、よくみると重度障害者が当てはまらないことや、人材育成や体験の場の設置が難しい等、様々な課題がある。碧南市は毎年評価を行っており、その評価を基に改善等に努めていることは以前にも話をしたことはあるが、他市にも紹介できることである。

医ケア児の支援について、こちらも各市で課題などが異なっている。碧南市としては、医ケア児が利用しやすい事業所が少ないと思うので、そのことの実態を把握するなど部会での検討を行い、今回の移動支援の制度改正に繋がったことについては素晴らしい事である。この圏域内で移動支援に通学、通所を対象としている市は無いと思うため、碧南市の事例として他市にも紹介できると思った。

圏域アドバイザーとして、この間、ピアサポート研修を行った。また、その他にも人材育成等についても意識をしている。碧南市にて、アンガーマネジメント研修を行った際に、他市の受け入れを許可したことについて、このようなことは圏域として良い事だと思う。

様々なことを話したが、これからも一緒に取り組んでいきたいと思っている。

以上